

ブイゴール[®] SM1 キロ粒剤

■種類名：シメトリン・ペノキスラム・MCPB粒剤	
■有効成分：シメトリン	4.5%
ペノキスラム	0.30%
MCPB	2.4%
■PRTR法指定物質：シメトリン〔第1種〕	4.5%

■登録番号：第22903号
■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
■登録初年：2011.03.16
■性状：淡褐色細粒
■有効年限：3年
■包装：1kg×12袋、10kg×1袋

【特長】

- 幅広い殺草スペクトラムを有するペノキスラムと中期剤では定番の有効成分シメトリンとMCPBを配合した中期除草剤。
- 処理時期が幅広い(移植後15日～ノビエ3.5葉期まで)
- SU抵抗性雑草、多年生雑草に有効。

【適用内容】(2015年5月13日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	シメトリンを含む農薬の総使用回数	ペノキスラムを含む農薬の総使用回数	MCPBを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ(東北) オモダカ クログワイ(北陸、近畿・中国・四国) ヒルムシロ セリ(北陸) シズイ(東北) アオミドロ・藻類による表層はく離(東北、北陸、近畿・中国・四国)	移植後15日～ノビエ3.5葉期 但し、収穫60日前まで	砂壤土～埴土	1kg/10a	1回	湛水散布	全域(北海道、九州を除く)の普通期及び早期栽培地帯	2回以内	2回以内	2回以内
直播水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ヒルムシロ	稲5葉期～ノビエ3葉期 但し、収穫60日前まで	壤土～埴土				全域			

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は雑草の発生初期に有効なので、稲が十分活着してから、ノビエの3.5葉期までに時期を失ないように散布すること(直播水稲で使用する場合はノビエの3葉期まで)。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカは3葉期まで、ウリカワは3葉期まで(北陸は2葉期まで)、オモダカは矢尻葉1葉期まで、クログワイは草丈10cm以下、ミズガヤツリは3葉期まで(関東・東山・東海及び直播水稲で使用する場合は2葉期まで)、ヒルムシロは生育期まで(東北、北陸、近畿・中国・四国は発生期まで)、セリは再生前から再生始期まで、シズイは草丈20cm以下、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期が本剤の散布適期である。
- 散布に当たっては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水戻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。
- 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失ないように適期に散布すること。
- 下記のような条件では薬害を生じやすいので使用をさけること。特にこれらの悪条件が重なる場合は使用しないこと。
 - ◆ 処理後数日以内に梅雨明けになるなど、異常高温が予想される場合。
 - ◆ 散布時が高温で蒸散が激しい場合。
 - ◆ 苗が軟弱な場合や活着不良の時、又は極端な深植えの場合。
 - ◆ 砂質土壌の水田、減水深の大きな水田(減水深2cm/日以上)、透水不良田、天水田、強還元田及び未熟有機物多用田。
 - ◆ 2cm以下の浅水及び7～8cm以上の深水の場合。
 - ◆ 整地の不均整な水田。

- 本剤はホルモン作用を持つ除草剤で、処理後低温が続く場合は稲苗の生育抑制などの薬害を生ずるおそれがあるので、処理時期の平均気温が15～16℃以下になるような場合には、使用をさけること。
- 本剤を直播水稻で使用する場合、稲の根が露出する条件では、薬害を生ずるおそれがあるので注意すること。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。散布後は水管理に注意すること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。